



発行所 平野新聞社 印刷所 平野新聞社 代印所 平野新聞社 代行所 平野新聞社 代定所 平野新聞社

農村に綿羊飼養は 何所から見ても利益

毛肉兩要と優良な自給肥料

石城郡にも普及し度ものだ
綿羊飼養は地方農村の副業政府の援助してゐる王子の
に頗る適當で毛織物の國産東京製織會社が喜んで引受
奨励の上からも最近その普及を促してゐる繁殖力は旺盛で
皮を叫はれ中央畜産會に於いて年一回の分曉で一頭
ても同事業の奨励補助三十乃至二十頭を
九萬圓の復活に對し
大藏農 林兩省に向つ
て運動中であるが石城郡に
於ける綿羊飼養は現在磐崎
村藤原に大樂氏を組合長と
する飼養頭數約三十頭十餘
戸の組合があるのみで遠通
りでは

失業者にまたれる 水道工事急よ着手

五日から取入口に二十余名

工事盛期は本月中旬頃から
平町水道工事の着手は本年搬がある為め右を平町茶屋
度工事期間が五ヶ月を剩す 喜店と契約した綴渡に對
のみとなつたので町當局も 五日午後三時委員會を開
非常の焦慮を以て本月一日 いて古河炭礦
鉄入れの豫定であつたが諸
準備の都合上から
四日 を 遅れた去五日
愈よ水源地取水室の工事に
てセメント貯蔵の假木屋と
着手し失業者二十余名に當
なし検査は上の原に於て行
びの作業を開始したので導
水路線の工事も關係地に於
ける箱の刈上げが茲一二日
を以て
完了すると同時に着
工の豫定を取つてゐる之れ
に先立ち所費セメントの運
送

相馬郡 有利な

相馬郡 中村町に於て
元本縣の郡長を奉職した鈴
木直清氏が老後自適の營み
に西山綿羊組合があり本縣
では伊達及び西白河郡が最
も盛んに飼養されてゐる同
事業の
有利な 點は農家の屑
物残菜を以て飼料に足る少
量な粗食で飼ひ得るのと而
かも成分の良好な肥料もと
れるので自給肥には此上な
く収入に於ては目下毛價が
下落しても一ヶ年一
頭六七圓は確實で生産品は

吉田光夫四女及子十月二
十六日午前六時
▲婚姻 平町字白銀町八
白土美知雄(三)と宮城縣

慰安會の晴の場で 東鐵局長から表彰

去三日から今六日までの 平聚樂館に於ける同會で

平聚樂館を中心とする附近各縣
鐵道従事員の慰安會は既報
の如く去三日から今六日ま
で平町聚樂館に於て開催さ
れたが毎日一千人以上の來
會に賑はつた尚ほ
同會を 期し關係縣に
於て二十年以上を勤続し成
績優良なもの左記十一名に
對し東京鐵道局長吉田浩氏
から記念品を添へて表彰状
を贈られた
▲關本驛々手遠藤順致
▲平機關車機手生田目未
之助 ▲平機關車係後藤源
太郎 ▲同保線區工手長大
樂平太 ▲同機關手寺内長
八 ▲同檢車係檢手吉田
目醒ましい活動を見せつゝ
居れぬさればとてこれ程の
の紅葉の枝を折つて家土産
に持ち歸るのも吾が後に看
る人の爲めに氣の毒である
せめては一葉なり二葉なり
鼻紙の間へはさんで行つて
未だ君の君が爲の慰めにし
やうと云ふのであります
あふぬけば喉(のんど)の
かわく紅葉哉 里 遊
紅葉見に来た本の下で仰の
りませうが紅葉見だけに猿
でせうが紅葉見だけに猿
と云つたからとて紅葉の
紅色が咽喉に這入つてかわ

俳句 紅於二月花

満壽莊主人
イヤ餘談は宛に角此鼻紙の
句の如きは余り賞めた句で
はありませぬが紅葉見に行
つた見事な紅葉があつたさ
で自分は此紅葉を心行くま
で賞続したがいろ／＼俗事
にさ／＼えられて紅葉狩も出
來ぬ友の事を思ふと自分ば
かり愉快だつたとすまして

村から感心の 道路工夫

土木監督所
長から表彰
平土木監督所が双葉郡大久
村に駐在して置く縣道修
理常務鈴木政之助(四)は同
臨時工夫となつて以來受持
路線に忠實なる働きを見せ
通行に困難の少なかつ
た個所が全部改まり關係町
村長にも漸く之れを認めら
れて去月卅一日大久村長矢
朝日同値の口付(みり)は
非常の賣行きであつて目下
の状況では裕に朝日を壓倒
してゐるものゝ如く賣出早
席の由である。

煙草の賣れ行きは 不景氣を知らない

只刻みの好賣行が其影響か

平町煙草元賣所に於ける
去九月中の賣上高は口付紙
巻煙草十一萬五千六個、兩
切の同二十萬三千六十四個
刻み煙草十三萬三千二百個
で前年に比すれば
總數に 於て僅少の増
加を見るのみで殆んど大差
がない只不景氣の影響か
て刻み煙草はなでしこが
加し巻煙草では兩切のもの
パット及び口付の朝日が見
立つて
増加し してゐる尚ほ明
途六日來平柴山技師の案内
で好開村上の原の淨水池及
び同博士の指導による擴張
工事地内を踏査當日住吉屋
本店に一泊七日歸京の途に
於て水戸水道の鉄入式に臨
席の由である。

工事指導 茂庭博士の

六日平町水道
の擴張工事に
平町水道擴張工事の顧問
茂庭博士は宮城縣石巻の歸
於ける水道工事に出張の歸
途六日來平柴山技師の案内
で好開村上の原の淨水池及
び同博士の指導による擴張
工事地内を踏査當日住吉屋
本店に一泊七日歸京の途に
於て水戸水道の鉄入式に臨
席の由である。

紅葉見に来た本の下で仰の
りませうが紅葉見だけに猿
でせうが紅葉見だけに猿
と云つたからとて紅葉の
紅色が咽喉に這入つてかわ
らぬ友の事を思ふと自分ば
かり愉快だつたとすまして
あふぬけば喉(のんど)の
かわく紅葉哉 里 遊
紅葉見に来た本の下で仰の
りませうが紅葉見だけに猿
でせうが紅葉見だけに猿
と云つたからとて紅葉の
紅色が咽喉に這入つてかわ
らぬ友の事を思ふと自分ば
かり愉快だつたとすまして

古松軒

東遊 拔萃 (三)
相馬から
石城まで

毎年五月中の申の日馬取の神事にて、其前日中村より相馬候を始め諸家中残らず原町に出て、各々魚鱗鶴翼の備へを立、侍大將足輕大將は言不及、陣將たる人は騎馬武者にて旗さし物を飾り、士格たる人々甲冑を着し、申刻より原に乗出し駒を敵として乗取事となす申日未明に鯨波をあげ空鏝砲を打、陣鉦太鼓を打ならし、馬を追廻し妙見宮の社内に追入て乗取也、是は昔より有事にて、太平の世たりといへども武備を忘れざる心得、馬を取事の名として戰場馳引の稽古也、故に軍學の師範たる人有て年々陣法同じからず、人々の備へ陣法の論等を有て尤興ある事よし、家中武術の嗜にも成て頼母敷事ならずや此事に付てさまざまの咄ども有、委敷は赤水先生の觀察記に記されし故に、略す多くの駒共冬月雲深き節はいかゞする事ぞといふに稻葉を影敷原に入置と言ひ此邊にも山犬(狼)の事也住て馬の子を取事有、領主より鐵砲打を數人付置るれ共闇夜などにはいかんともなし難し、馬も相應の智恵付て、夜分は子を真中に寄せ親馬多く取廻し、替る々々番をする也、狼又馬の

子を取らんと思ふ時は馬の傍を徘徊して見すれば、親馬子をとられまじとて狼を追廻し、其隙に草の中より隠れ居たる山犬出て、親馬の居ぬ隙を伺ひ子を取て二疋も寄てくわへ逃るよし、馬より狼の智はまされりと言、予が曰、左に非ず、人にも愚昧成ものに悪事をなす事は甚かしき有、獸も同じ事にて、狼は悪事をなすに賢き也、犬は物をよく覺てかしこけれ共盜には疎く、猫は魯鈍され共物を盜事はかしこき道理也、

●破格の勉強で 歡迎される

静岡本場 大角園 特約
小笠原茶
半谷商店
平大町若松病院隣

痔 療 散

子に悩める方へ

最近の發見薬を勧む

世に傳へて、スピード化 然かも呪しき皮肉の存在餘りに過たず、痔疾の効驗、茲に本年度開期前進出せる痔療散 其の効驗の速快神妙に神の如く將に悩める者への福音、速に試みて速に試みられ共の事實を
一度の實驗は百開より確證に證明されん
新進にして一躍痔療界の覇者
明治藥學專門學校教授
田中豊彦先生創製の「痔療散」

定價 參日分 九拾錢
壹週分 貳圓八拾錢
貳週分 參圓四拾錢

私達の恩師母校の教授田中先生多年苦心せる研究痔療散の代理店を開始す切に御試驗を乞ふ

平町五丁目角
平町代理店 山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎

外科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
院長 醫學士 高久忠

偉大なる化學の力

ハゲナイ漆器

容易に破損いたしません

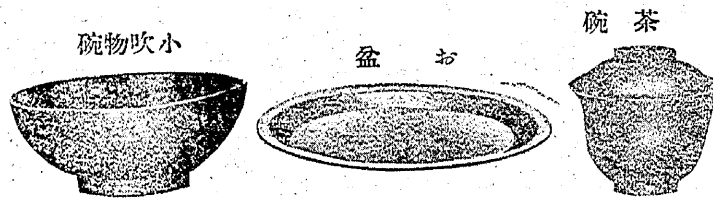
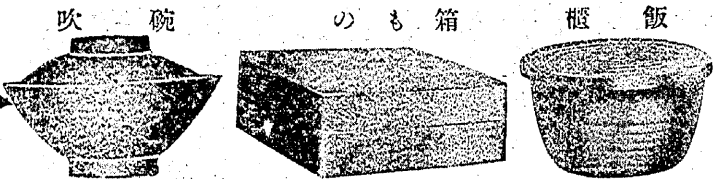
熱湯にも酸類にも耐えられます

絶対に變形、變色せず

高尚で優美で一度買ひば眞に萬代まで使はれます

釜屋器物部

平町電話九番 九九番



ふゆの通學服 斷然特賣の超尖端

サロニ

平町電話三五三

モリタヤ洋品店

電話三五三番

小學生用長スボン付

特製	95 錢ヨリ
極上品	140 錢ヨリ
中學生用	
特製	170 錢ヨリ
極上品	250 錢ヨリ

買良き店 5丁目

モリタヤ洋品店

電話三五三番

召上りせまり

安くて うまくて 品がよい

カフェー ヒラ食堂

(電話) 番 〇二六

安價に 迅速に 町噂に 親切に

福島縣石城郡平町 遠藤活版所

電話二七七番

表代城磐 酒銘

美味經濟 香油

山崎合名社

電話一〇番

入湯時の快感を

「カクニ石鹼」で

品質純良 價格低廉 心地よい泡立 優雅な香

壹ケ 金拾錢

ツルヤ

平町四丁目 電話一四〇

入院應需 自炊の便あり

明雲堂眼科醫院

平町電話六六九番